

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが砂や水の感触を楽しんだり、水と砂が混ざって感触が変化していく様子、形が変化する面白さ等を感じたり、たくさんの発見できるよう、このテーマにした。全身を使って、思いきり遊べるよう環境を整え、大人や友達との関わりがどう広がっていくかも大切に見ていく。

＜活動スケジュール＞

1年を通して砂水遊びを継続的に取り組んでいる。
季節に応じて、水を存分に使ったり、泥遊びで感触を楽しむ。
個々の動きや興味に応じて、泥遊びや水遊びができるよう、関わりを持ちながら楽しんでいく。

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

テラスに出ると早速手を伸ばして砂に触れる。握ったり、掴んだ後に自分の掌を確かめる。保育室の前に山を作っておいたことで、自分から園庭に出ていく。不整地の山を、バランスを取りながら登降する姿があった。たらいを頂上に置いて子どもの前で水を入れると、興味を持って登り、たらいの中の水をたたいたり、たらいの中に入って全身で水や泥の感触を楽しむ子や、それを見て自分もやってみようとする子の姿があった。水がはねる感触や、砂を水の中に入れて泥になる面白さを感じることができた。

水が心地よく、自ら水に触れようとする姿がよく見られたので、砂山にホースを入れて山から水を勢いよく出してみる。遠くから不思議そうに見つめる子、近くまで行って、勢いよく出る水に触れる子、砂山から泥が流れるのを見て叩いてみる子等、個々のペースで砂や水に触れて遊んだ。
触れて変化する砂水の面白さをたくさん感じていけるよう、季節に合わせて十分に遊んでいけるようにする。

＜振り返り＞

- ・気温が高かったので、水を存分に使って遊べるようにしていった。
遊ぶ際には、布パンツに履き替えて、全身で泥や水に触れて刺激を入れていけるようにすると共に、水を吸ったオムツで重たくならず存分に身体を動かしていけるようにした。
- ・子どもたちは、水や泥の心地よさを感じ、変化に夢中になっている姿があった。
砂が増えたことで、大きな山がいくつもできており、登っていきたいという好奇心を持って探索する姿があった。
- ・泥が苦手だった子も、水遊びから始めると嫌がらず遊ぶ姿が多かった。
だんだん感触を楽しむことができるようになってきているが、水があることでより動きを引き出すことができるので、気温に応じて、水の量は調整しながら今後も継続して遊んでいく。

園名：社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園
活動日時：令和7年9月29日 晴
午前中

クラス名：ひよこ組（0歳児クラス）
りす組（1歳児クラス）

＜活動のために準備した素材や道具＞

砂・水・たらい・ホース 等

